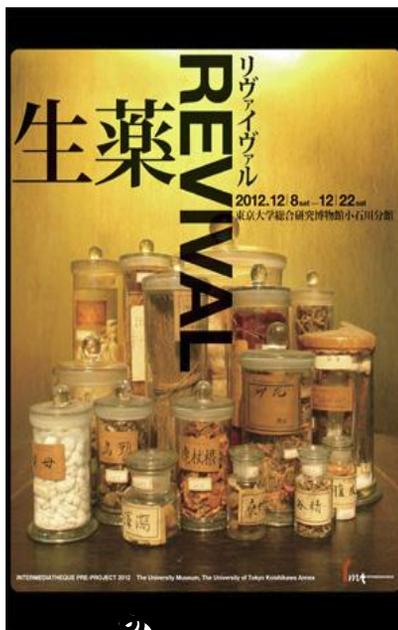


# 薬草園だより

Vol. 52  
Dec 25

今年も早いもので残りわずかとなりました。今回は番外編として東京大学総合研究博物館小石川分館で行われた「生薬リヴァイヴアル」の見学レポートをお届けします。残念ながら展示期間は終了しています。



ちなみにこのポスターは自由にお持ち帰りください状態でした…。太っ腹やでえ…。

## 外観

このようなレトロな建築物の中で東京大学が備蓄している薬学標本などが展示されていました。周辺には小石川植物園があり、四季折々で様々な楽しみ方が出来そうです。今回は時間の関係で植物園の見学は断念しましたが、またの機会に散策へいく楽しみが出来ました。



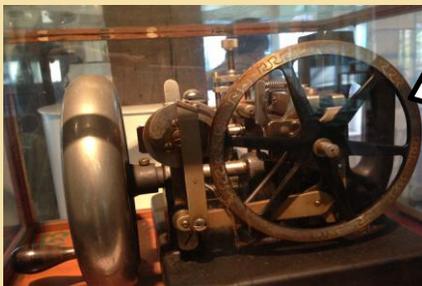
## 館内



歴史的にも価値のある生薬標本が多数展示されていました。現在でも医薬品として用いられている生薬と同じものが古いものでは戦前のもものもあり、薬の今と昔を繋ぐ流れが脈々と受け継がれていることを肌で感じる事ができました。



マイクロームと呼ばれる機械で生薬を裁断しその切片を切り出すために用いられます。切片は顕微鏡で観察し形態から植物の鑑定・分類などの研究をおこないます。



これが切り出された切片です。このようにプレパラートを作ります。本学の薬用資源学研究室では同様にして研究を行っていることもあり、先人の技術を目にしたことで心が引き締まりました。



この可愛いセンザンコウも生薬標本です…(笑)



原動物名：ミミセンザンコウ  
系統：有鱗目  
生薬名：鯪鯉(リョウリ)  
薬用部位：肉または全体  
薬効：駆瘀血  
採集：泥砂をかけるかイヌに襲わせる。丸くなるため捕えやすいとのことです…。